

やまぐちっ子学力向上だより

第162号 R8.1.27

山口県教育庁義務教育課

子どもも大人も探究的に・自律的に課題を追究する

ある学校の校内研修で、「子どもたちの『主体的・対話的で深い学び』の実現をめざしている私たち自身は、はたしてそのように学んでいるでしょうか」というお話がありました。子どもたちにとって、身近なロールモデルとなる教職員がどのように学んでいるかということは、子どもたちが自分たちの学びをよりよいものにしていくためにとても大切です。教職員自身が「自分なりのめあて（課題意識）をもつ」「多様な他者との対話を大切にする」「探究的に学ぶ」「振り返りを重視する」といったことを大切にして学び続けることは、先生方の授業力の向上に欠かせないことであると考えています。なお、「多様な他者」には同僚、他校の教職員、そして地域の方々や専門家などはもちろんのこと、学びの主体者である子どもたちが含まれます。

同僚などと「めあて（課題意識）の共有」

私は授業で〇〇な活動を通して子どもに力をつけたいのです。

A先生の視点のこんなところが私と共通していますね。

私は〇〇というめあてを立てていて、〇〇が課題です。

そういう視点で、こういう取組をしてるんだな。

子どもたちと「めあて（課題意識）の共有」

私は皆さんに〇〇な力をつけてほしいと思っています。だから、皆さんと一緒に、〇〇な授業をつくりたいと思っています。特に〇〇の活動を大切にするので、〇〇をがんばってほしいです。

A先生も学び続けているんだな。
私たちががんばろう！

今日の授業では〇〇がわかりました！

今日は〇〇が十分できなかったから、次は～したいと思います！

こうした同僚や子どもたちとの協働や自分の学びの共有を、ぜひ意図的に行ってほしいと考えています。それが、子どもも教師も、「ともによりよい授業をつくっていこう」とする主体者意識を醸成し、教師が学びのロールモデルになるということにつながります。

山口県では、今年度から、国事業の委託を受け、「学校マネジメント力強化推進事業」を進めています。「『子どもの新たな学び』を実現するために、子どものロールモデルとして『教師の新たな学び』を実現すること」を目的とし、「子どもの学びと教師の学びは相似形」をキーワードとして意識し、県内中心校の校長と中堅教諭を対象に年間を通じて研修を行っているところです。

（山口県で考える「新たな学び」）

最適解を求めて、他者に対話したり試行錯誤したりするなど探究的・自律的に課題を追究していく中で、多様な価値観や専門性に触れ、知識やスキルが構造化し、物事に対する見方や考え方が強化・修正されるとともに、「学ぶ」ということに対する自己の在り方を更新させていく学び。

「研修観の転換」に係る参考資料について

文部科学省、NITS（教職員支援機構）においても、新たな教師の学びの実現に向けた動きが展開されていますので、いくつか共有します。

○「『令和の日本型学校教育』を担う 教師の養成・採用・研修等の在り方について ～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を 有する質の高い教職員集団の形成～（令和4年12月）」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00004.htm

○新たな教師の学びについて【動画】（学習院大学 秋田喜代美 氏）

NITS 独立行政法人教職員支援機構

<https://www.youtube.com/watch?v=aO1Gb9LAsZs>



○NITS 戦略 ～新たな学びへ～

<https://www.nits.go.jp/about/strategy/>



子どもたちと先生方が一緒になって学ぶことに夢中になり、主体者意識をもって学び続けることのできる山口県をめざしていきたいと考えています。